

## 2022年度

評価受審年度 2017（平成 29）年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年時報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34

### はじめに

本学医学部医学科は、平成 29 年に日本医学教育分野別評価機構による医学教育分野別評価を受審し、平成 30 年 9 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

評価結果を受け、各領域全体の評価項目において点検・改善を行い、特に「良い点・特色ある点として評価された項目（特記すべきよい点（特色）」及び「今後改善が見込まれる項目（改善のための助言）（改善のための示唆）」について、医学教育全体の継続的改善を行っている。本年度の年次報告書は医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34 を踏まえ、令和 3 年 9 月 1 日～令和 4 年 8 月 31 日を対象とし作成した。

また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34 の転記は省略した。

## 【領域 1】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
「医療の谷間に灯をともし」を目的に、全国都道府県が設置した医学部として使命を定め、使命から 3 つのポリシーや学修成果を明確に規定している。使命には、社会からの要請が明示されているだけでなく、医学部が社会に対して持つ責任も明示されている。	
さらに推進した点	
大学として、看護学部、大学院の使命と整合性を持たせるため、改めて見直しをおこなった。医学部の使命については今回改訂は行わなかった。	
今後の計画	
定期的に見直しをおこなっていく。	
改善状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

1. 使命と学修成果	1.1 使命
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
特記すべきよい点（特色）	

「医療の谷間」は国内だけではない。開学当初は国内の地域医療に重点を置いていたが医療の谷間としての国際保健についても検討を開始している。
<b>さらに推進した点</b>
長期計画において、「アジア地域を中心とする国外での地域医療の推進にも貢献する。」の文言があり、卒業生の将来についても国際医療をはじめ様々な活躍の場があることを広報でも言及することとした。
<b>今後の計画</b>
学内、学外へ発信していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.1 使命</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学研究の達成をどのように使命に組み込むか、さらなる検討が望まれる。特に自治医科大学の使命との整合性の検討が課題となる。	
<b>現在の状況</b>	
自治医大のミッション第2項目に研究の表現を組み込むことについて検討中である。	
<b>今後の計画</b>	
年度内にミッションの改訂を進める。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべきよい点（特色）</b>	
設置母体である都道府県からの意見を聞きながら、教務委員会が組織自立性を持って、カリキュラムの作成、教育資源の配分を行っている。	
<b>さらに推進した点</b>	
教務委員会の下部組織であるカリキュラム評価部会において、カリキュラム評価を実施し、結果を受けてカリキュラム部会の下位のカリキュラム改善 WG において、次年度のカリキュラムの変更を検討、決定した。	
<b>今後の計画</b>	
抽出した問題点と改善点について、カリキュラム評価委員会及び各カリキュラム改善 WG 等においてそれぞれ役割分担を行い、PDCA サイクルを回す。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.2 大学の自律性および教育・研究の自由</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべきよい点（特色）</b>	
学生にとって学びやすいカリキュラムをモットーに、学生からの意見を重要視しながらカリキュラムの検討を行っている。	
<b>さらに推進した点</b>	
学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会を原則1回／月開催し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。令和4年度1学期終了後、学生全員を対象にカリキュラム評価をMoodleを用いて実施してもらい、大多数の学生より回答を得た。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、カリキュラム連絡協議会において、学生の意見を吸い上げ、その改善案についてもカリキュラム連絡協議会を通じ学生にフィードバックし、意向を確認している。カリキュラム評価については科目責任者や教務委員会へフィードバックし、次年度以降のカリキュラム改善に活かしていく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料2 令和4年度カリキュラム連絡協議会部会員 資料3 令和4年度カリキュラム委員一覧	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべきよい点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーに、卒業時のアウトカムである「学修成果」としてのコンピテンスとコンピテンシーが記載されている。</li> <li>・在学中に学生が段階的に資質・能力を涵養できるように、学修成果の下位領域を中項目、小項目として明確に記載している。</li> <li>・卒業生の社会的責任が明確に学修成果に記載されている。</li> </ul>	
<b>さらに推進した点</b>	
ディプロマ・ポリシーは、小項目が多く煩雑であったため、令和4年度、パブリックコメントを経て、全体を33項目から18項目に整理した。さらに、ディプロマ・ポリシーの段階的獲得をチェックするため、3段階のマイルストーン評価を設定し、Moodle上にループリック評価表を作成した。	
<b>今後の計画</b>	
マイルストーン評価結果をIRで分析し、学生全員に対し面談でフィードバックを行う予定である。	

<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料4	自治医科大学医学部ディプロマ・ポリシー
資料5	ディプロマ・ポリシーとマイルストーン

### 改善した項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
「学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に習得させなければならない」ことを明確にするために、「行動規範」を作成すべきである。	
<b>改善状況</b>	
平成 31 年に制定した「行動規範」については、毎年 4 月に実施している教務委員会オリエンテーションにおいて全学生に周知し、学生便覧にも掲載し毎年 4 月に学生に配布している。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き、学生に対し周知徹底を行うとともに、必要が生じた場合は現状に合わせ改訂していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料6 医学部学生の行動規範、行動指針	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
卒前教育に続く卒後臨床研修との接続性について、学修成果への記載を検討すべきである。卒前教育、卒後研修の 8 年間の医師養成を通じて、卒業生が自治医科大学の使命を果たすためのトレーニングが重要であることを明記すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
令和 4 年 4 月 1 日付けでの自治医科大学医学部のディプロマ・ポリシー改訂に際し、（大項目Ⅱ）の下の中項目で、科学的探究と生涯学習を身につけることを新たに設定し、卒業後のトレーニングについて言及した。	
<b>今後の計画</b>	
ディプロマ・ポリシーの妥当性を、マイルストーン評価と卒業生の実態を IR で分析し検討を行う予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料4 ディプロマ・ポリシー	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学研究に関する学修成果の設定を検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
令和4年4月1日付けで自治医科大学医学部のディプロマ・ポリシーを改訂し、大項目Ⅱの医学・医療における専門知識・技能、中項目に総合医としての問題解決と科学的探究を設定した。相当するマイルストーン評価項目として、臨床実習前までにリサーチマインドを持つこと、卒業時研究手法を理解し実践する力を身につけていることを定めた。	
<b>今後の計画</b>	
令和4年7月に実施した学生と教員で同じマイルストーン評価を実施し、IRで分析後、形成的評価として学生全員に対し面談でフィードバックを行い、到達を評価する予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべきよい点（特色）</b>	
教務委員会が医学部の使命や3つのポリシーを提案し、これに対して全教職員と学生を対象にパブリックコメントを集め、全学で協働して使命を作成したことは高く評価できる。	
<b>さらに推進した点</b>	
ディプロマ・ポリシーの改定案について教務委員会にて承認し、令和3年11月29日から令和3年12月10日まで全教職員、全学生を対象としてパブリックコメントを求め修正した。その後、令和3年12月23日に開催された教育に関わる主要メンバー（学長、副学長、教授、准教授等）が出席する医学部教授総会にて承認した。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム・ポリシーについては、今回のディプロマ・ポリシーの見直しとマイルストーンの評価のトライアルの結果を参考に点検する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料4 ディプロマ・ポリシー	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>1. 使命と学修成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
-------------------	------------------------

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべきよい点（特色）</b>
全国都道府県、卒業生などのステークホルダーから 幅広く意見を集めていることは高く評価できる。
<b>さらに推進した点</b>
本年度も、各都道府県の主管課長会議を6月2日に Web で開催し、全国都道府県と大学とで意見交換を行った。
<b>今後の計画</b>
10月9日に本学の顧問指導・学外卒業後指導委員合同会において、学外および卒業生等との意見交換を行う予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
資料7 令和4年度 都道府県自治医科大学主管課長会議次第

## 【領域 2】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習を4年次から開始し、十分な期間を定めていることは高く評価できる。</li> <li>・少人数グループ学習、basic PBL や症例基盤型学習などの学習意欲を高める授業方法を多く取り入れていることは評価できる。</li> <li>・学生寮を活用した協働学習は、学習意欲を高める学習環境として、高く評価できる。</li> </ul>	
さらに推進した点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・BSL 連絡協議会にて、各科の到達目標の改訂を実施した。</li> <li>・コロナ禍での感染状況を踏まえながら、教務委員会を中心に、講義実習の対面・メディア切り替えを迅速に行っている。対面については密を避けるために、2つの教室のメディア回線を繋いで同時に授業を配信するなど、設備の改善も行なった。</li> </ul>	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での感染状況を踏まえながら、引き続きメディア授業も活用しながらカリキュラムの実施および改善を行っていく。</li> </ul>	
改善状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習前カリキュラムが過密である。この時期の学生が効率よく学べるように、授業内容の調整などを行うべきである。	
現在の状況	
カリキュラム評価部会のカリキュラム評価をもとに、令和5年度のカリキュラム改革の検討を開始した。	
今後の計画	
特に水平統合、5年次カリキュラムについて検討を行う予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
------------	-----------

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべきよい点（特色）</b>
初年次の思考の整理、3年次の臨床推論、テュートリアルおよび症候学で分析的で批判的思考のカリキュラムを実践している。
<b>さらに推進した点</b>
コロナ禍での対面制限の影響を得ながらも、逐次カリキュラムの改善をおこなっている。
<b>今後の計画</b>
教務委員会、カリキュラム部会を中心にカリキュラムについて検討を行う。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラムの中で必修科目として、医学生が主導あるいは参加する小規模な研究プロジェクトを導入すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
地域医療に関する研究プロジェクトを実施している科目について実態に即した科目名を検討中である。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラムの表記をわかりやすくしていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
低学年から積み上げてきた医学統計学と臨床疫学の知識を臨床実習に活用し、学生が臨床の場でEBMの手法を実践できる能力を養うべきである。	
<b>現在の状況</b>	
臨床実習前におけるこれらのカリキュラムについて、3年次の学習を検討中である。	
<b>今後の計画</b>	
3年次以降のカリキュラムを毎年更新していく予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	



#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを基礎医学カリキュラムに反映させることが望まれる。	
現在の状況	
将来的に必要とされる先進医療や科学研究については、2年次の分子医学入門において、遺伝子治療や再生医学などのトランスレーショナルリサーチを講義している。先天性代謝異常症の質量分析を用いた新しいマススクリーニング法や染色体異常症に対する非侵襲的出生前診断法(NIPT)なども、病態生化学で講義している。これらの先端的研究法の実践として、2年次選択セミナーや6年次フリーコースチューデントドクターコースなどの選択科目にて実習を行なっている。	
今後の計画	
推進する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8 令和4年度教育要項（分子医学入門）	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
行動科学および医療倫理学に関して、初年次から6年次まで地域医療を基盤としたカリキュラムを継続的に配置していることは高く評価できる。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
教務委員会を中心にカリキュラムについて検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムに反映させることが望まれる。	
現在の状況	

教務委員会において検討を実施している。
<b>今後の計画</b>
継続していく。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.5 臨床医学と技能</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>特記すべきよい点（特色）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後に地域で求められる医療的責務を果たすためのカリキュラムを実践していることは高く評価できる。</li> <li>・地域医療院外実習（CBL）など出身都道府県での実習の機会を設け、卒後臨床研修との接続性を重要視している。</li> </ul>	
<b>さらに推進した点</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.5 臨床医学と技能</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
診療参加型臨床実習の効果を上げるために、重要な診療科の臨床実習を適切な期間行うべきである。	
<b>現在の状況</b>	
本学が目指す総合医を養成するために必要な診療科実習について、特に5年次のカリキュラムについて検討中である。	
<b>今後の計画</b>	
臨床系（BSL・臨床講義）カリキュラム改善WGにおいて令和5年度のカリキュラムについて具体的な検討を行う。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.5 臨床医学と技能</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	

<b>改善のための示唆</b>
患者安全に配慮し、学生に対して病院職員と同等の医療安全や感染防御の研修を検討すべきである。
<b>現在の状況</b>
2014年度より新設された4年次BSL感染症科の実習では、臨床現場における患者安全にも配慮した感染防止対策を実践的に学ぶカリキュラムが実施されている。
<b>今後の計画</b>
病院職員対象の医療安全講習会への学生の出席をどこで行うか検討する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
1年次から2年次で行われている基礎医学系科目での内容調整、教育の効率化を考え、水平的統合の在り方を検討する事が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
2年次1学期のカリキュラムにおける水平統合について検討を開始した。	
<b>今後の計画</b>	
令和5年度カリキュラムより導入を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.7 教育プログラム管理</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラム部会の構成委員に学生の代表を含むべきである。	
<b>現在の状況</b>	
学生自治会の全学年ごとカリキュラム委員が出席するカリキュラム連絡協議会で、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。年に3回行われる学長・学生懇談会の場でも学生からの提言がなされている。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム連絡協議会の学生委員等を含めた拡大版カリキュラム部会の開催を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム部会に教員と学生以外の教育の関係者を含むことが望まれる。	
現在の状況	
学生自治会の全学年ごとカリキュラム委員が出席するカリキュラム連絡協議会で、活発な意見交換や提言がなされ、医学教育センター、学事課を通じて問題解決に努めている。	
今後の計画	
カリキュラム連絡協議会の学生委員等を含めた拡大版カリキュラム部会の開催を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 令和4年度カリキュラム連絡協議会部会員 資料3 令和4年度カリキュラム委員名簿	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
6年次に出身都道府県での研修先病院で臨床実習を行う機会を設けていることは評価できる。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料9 令和4年度5・6学年臨床実習（都道府県拠点病院実習内容一覧）	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：適合	
特記すべきよい点（特色）	
臨床実習や地域医療院外実習(CBL)に関して、卒業生からの意見の聴取や各都道府県での会合により情報を得ている。	
さらに推進した点	
継続中である。	
今後の計画	

本年9月に全国地域医療臨床教員研修会を開催し、意見交換を行う予定である。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

**今後改善が見込まれる項目**

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.8 臨床実践と医療制度の連携</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
地域や社会の意見を教育プログラムの改良に活かすことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>本学が主催する地域医療フォーラムや住民シンポジウムなどは「地域や社会」と「医療」との関係性、さらには本学の使命にも関心を寄せる多様な人々と接する機会であり、そこで議論される内容は医学教育の原資となる示唆に富んでいる。こうした場に参加した学内教員が教育プログラムを考案している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
本年10月に第15回地域医療フォーラム2022を開催する予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料10 第15回地域医療フォーラム2022ポスター	

## 【領域 3】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像、音声、動画を取り入れたマルチメディア型 CBT 式の総合判定試験は知識、技能に対する独自の総括的評価法として高く評価できる。</li> <li>・従前から卒業要件として技能・態度を総括的に評価する Post-CC OSCEを導入し、継続的に改良していることは評価できる。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
いずれも検討部会で検討を重ね、マルチメディア形式総合判定試験の記述式動画・音声付連問は経年的に多様性・問題数を増しながらも 10 年間以上安定した試験を運営できている。マルチメディア形式の医師国家試験についても 5 年生を対象に作成、学内で試行した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続きブラッシュアップ作業を行い作問レベルの維持をはかっている。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
低学年から確実に態度評価を導入し、学生の成長を促すべきである。さらに Moodle を使った評価の導入を確実に進めるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
令和 4 年ディプロマ・ポリシーの改訂に際し、マイルストーンを設定し、Moodle 上にルーブリック評価表を作成した。令和 4 年 7 月からまずはトライアルとしてこれに基づき年 2 回、学生全員と担当教員による態度を含めたマイルストーン評価を開始した。	
<b>今後の計画</b>	
9 月には学業成績結果も併せて、形成的評価として、学生全員に対し各学年部会の教員より面談でフィードバックを行う予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料5 ディプロマ・ポリシーとマイルストーン	

### 改善した項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
-----------------	-----------------

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>改善のための助言</b>
科目別で行われている試験について、その内容を外部の専門家が検証する仕組みを作るべきである。
<b>改善状況</b>
2019年に導入した医学教育センター試験評価部会において、年3回のペースで教科の本試験・再試験の評価を実施している。各科目の評価結果は教務委員会で報告、承認のうえ、部会長が各科目責任者へフィードバックしている他、医学部教員へFDにて公表した。結果、試験内容は改善した。
<b>今後の計画</b>
3回の試験評価部会を開催する予定としている。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

### 改善した項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
科目別で行われている試験に対する疑義を学事課や教務委員会が組織として受け取るシステムを作るべきである。	
<b>改善状況</b>	
2019年に導入した試験に対する疑義を受け付けるシステムを、学生に掲示物で周知し、運用している。昨年度の疑義照会は2件あり、関係科目責任者と調整対応し結果を掲示板にて学生にフィードバックした。	
<b>今後の計画</b>	
疑義に対し、教務委員会が介入し、担当科目責任者の対応を調整するシステムの導入を考慮する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
新しい評価法としてマルチメディア型 CBT や Moodle を活用した評価を導入している。	
<b>現在の状況</b>	
継続中である。マルチメディア型国家試験を作成し、昨年度トライアルとして5年生を対象に実施した。	

<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

**今後改善が見込まれる項目**

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
総合判定試験以外の各科目試験の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
2019年に導入した医学教育センター試験評価部会において教科の本試験・再試験の評価を順次実施している。また、カリキュラム評価部会でIRを介して科目間の評価の相関を解析し、評価指標の妥当性について検討した。特に2020年1学期におけるメディア授業による科目評価については、その後の成績との相関が低いことが判明した。	
<b>今後の計画</b>	
継続する予定である。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
評価の公平性・透明性を高めるために外部評価者を活用することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
カリキュラム評価部会において、IR部門を活用し、科目間の成績評価について比較検討を行っている。評価指標については、試験、実習点の配点割合など、教育要項において各科目が公表している。「不可」評価については、年度末の進級判定会議において、各科目責任者から直接説明を聞いている。	
<b>今後の計画</b>	
評価の公平性・透明性を高めるための外部評価について継続して検討していく。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**



<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学修成果を測定するために各科目における学習内容や評価の情報を大学全体として組織的に管理し、それを包括的に評価する体制を構築すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
学習内容や評価情報については、教育要項を令和元年度には電子化し、電子シラバスを導入して組織的に管理している。ただし、令和4年4月1日付けで自治医科大学医学部のディプロマ・ポリシーを改訂したことに伴い、教育要項における学修成果項目が更新されていない。	
<b>今後の計画</b>	
次年度に向けて、整合性を図っていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生一人ひとりが自分の学習進捗を認識し、学習意欲を刺激する評価法の導入を検討すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
令和4年度より年2回マイルストーン評価を学生自身と担当教員が実施し、今後面談でフィードバックするシステムをトライアルで開始した。	
<b>今後の計画</b>	
7月に実施した学生と教員で同じマイルストーン評価を9月に形成的評価として学生全員に対し面談でフィードバックを行う予定である。評価についてはIRで解析予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学修との関連</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
基本的な知識の修得と科目を越えた統合的学習を促進するために、適切な試験の回数と評価方法を検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
医学教育センター試験評価部会において、教育の専門家が定期試験・再試験の	

評価を実施している。
<b>今後の計画</b>
今後、試験の回数・評価方法、実習の評価方法も検討していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

## 【領域 4】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の使命に沿ってディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが定められ、これらとアドミッション・ポリシーとの関連が明確に示されている。</li> <li>・社会の要請に対応し、アドミッション・ポリシーを定期的に見直している。</li> </ul>	
現在の状況	
ディプロマ・ポリシーについては、令和3年度にカリキュラム・ディプロマポリシー検討WG及び教務委員会において点検・評価し、パブリックコメントを経て令和4年4月に改訂した（アドミッション・ポリシーについては、試験方法変更を機に、令和2年4月に改訂した）。	
今後の計画	
カリキュラム・ポリシーについては、令和4年度にカリキュラム・ディプロマポリシー検討WG及び教務委員会において点検・評価を行う予定としている。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.2 学生の受け入れ
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
地域医療や社会からの要請に応え、学生の受け入れ数について、他の教育関係者（地域医療に関連する関係省庁連絡会議）と協議して定期的に見直している。	
現在の状況	
都道府県に対する増員希望の調査結果を踏まえて、令和4年8月31日の理事会において、令和5年度の医学部医学科収容定員を引き続き123名に増員することについて審議・了承した。	
今後の計画	
学生の受け入れ数と特性については、関係省庁、都道府県を含む関連分野の協議者とも密接な連携を図り、収容定員の決定を行う。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
-------	-------------------

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>改善のための示唆</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Students' Mentor System (学年担任制度)、学習支援部会、学生生活支援センターなどの学習支援・学生支援制度が整備されていることは評価できる。</li> <li>・Big Brothers and Sisters system および寮生活での学生同士の支援が機能していることは評価できる。</li> </ul>
<b>現在の状況</b>
<p>新型コロナウイルス感染症の影響下でも継続できている。2年間実施できなかったBBS (Big Brothers and Sisters system) キャンプを令和4年4月23日(土)から24日(日)にかけて学外施設で実施した。</p> <p>新生生の横の繋がりとお上級生の縦の繋がり確立することができた。</p>
<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>
資料11 BBSキャンプ日程表

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.3 学生のカウンセリングと支援</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の使命に基づき、教育プログラムにおいて初年次から卒業時まで継続して行われるキャリアガイダンスや卒業指導委員会によるキャリアプランニング支援が行われていることは高く評価できる。</li> <li>・都道府県人会やBig Brother and Sister Systemなどがキャリアガイダンス機能を果たしている。</li> </ul>	
<b>現在の状況</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.4 学生の参加</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>学生の代表が正式委員として使命の策定、教育プログラムの策定・管理・評価および学生に関する諸事項を審議する委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。</p>	

<b>現在の状況</b>
学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会が一層活発化し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。コロナ禍で一時中断していた学長・学生懇談会も、講堂を使って再開され、学生からの提言がなされています。学生による年2回のカリキュラム評価を、マイルストーン評価と同期させてMoodle上で行い、大多数の学生からの評価が得られた。
<b>今後の計画</b>
カリキュラム連絡協議会の委員等を含めて、カリキュラム部会やカリキュラム評価部会の拡大版カリキュラム部会の開催を検討する。カリキュラム評価の結果をIR部門で解析しカリキュラム改善へ反映させていく。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>
資料12 令和4年度学長・学生懇談会次第

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.4 学生の参加</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生のボランティア活動や国際的な交流を支援していることは評価できる。	
<b>現在の状況</b>	
新型コロナウイルス感染症の影響で一時中止している。	
<b>今後の計画</b>	
新型コロナウイルス感染症の状況をみながら継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

## 【領域 5】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の教育病院の指導者を対象とした FD を定期的に開催していることは評価できる。</li> <li>・各都道府県から顧問指導委員・学外卒後指導委員を集め、合同会議を開催し学生指導に関する FD 活動を行っていることは高く評価できる。</li> </ul>	
現在の状況	
<p>医学部教員 FD を本年度は 10 回の開催を予定しており、5 回開催した。ハイブリットによる出席も可能とした。また、今年度の都道府県拠点病院指導医研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響から実地開催が困難だったことから、第 23 回全国地域医療臨床教員研修会の録画動画を配布した。</p>	
今後の計画	
<p>医学部教員 FD については、年度末までに 5 回開催予定である。</p> <p>また、今年度の全国地域医療教員研修会も昨年に引き続き、9 月 17 日に WEB 開催する予定である。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料13 2022年度医学部FD実施予定表	

### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>教育資源としてカリキュラムの主要な構成要素ごとに十分な教員が確保されていることを担保するために、各教員のエフォート率を大学が組織的に管理すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>現在では Moodle によって医学部のカリキュラムが電子化されたため各教員の貢献が把握できるようになった。教務委員会を中心に関係部署において各教員の教育・診療・研究におけるエフォート率を組織的に管理するための検討を開始した。</p>	
今後の計画	
<p>将来的に教員エフォートを集計・評価する方法を検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教員一人ひとりがどのような教育活動を行っているかをデータとして集め、診療、研究だけでなく、教員の教育活動への評価を行うべきである。	
現在の状況	
教務委員会において、各教員のエフォート収集方法の検討を開始した。	
今後の計画	
将来的に教員エフォートを集計・評価する方法を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全ての教員がカリキュラム全体を理解できるよう、教員支援を行うべきである。	
現在の状況	
医学部教員 FD を本年度は 10 回の開催を予定しており、5 回開催した。メディア授業の作成支援については引き続き実施している。	
今後の計画	
年度末までに 5 回開催予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 13 2022 年度医学部 FD 実施予定表	

## 【領域 6】

### 良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・大学から学外臨床トレーニング施設に教員が派遣され、学生の臨床実習の指導を行っている。	
現在の状況	
昨年までは、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の院外実習は制限していたが、今年度から 4・5 年生の一部の実習科目において院外実習を再開した。	
今後の計画	
新型コロナウイルス感染症の影響をみながら、院外実習再開について検討を行う他、将来的に増やす予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料14 COVID-19対応ガイドライン：BSL (Version8)	

### 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生が臨床実習で経験する患者数と疾患分類を把握すべきである。	
現在の状況	
本年度から新たに、学生が BSL 中に経験した症例・疾患や医行為を記録するシステムを、成績評価のレポートと連動させる形で構築し、4 学年から入力を開始した。	
今後の計画	
マイルストーン評価結果のフィードバック時に併せて、入力結果をもとに指導できるよう検討を開始する。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 改善した項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
メディカルシミュレーションセンターで学生が経験する臨床技能トレーニング内容を把握すべきである。	



<b>改善状況</b>
2019年度より、メディカルシミュレーションセンターに学生が同センターを利用して行った学習記録を保存するシステムを導入し、管理している。
<b>今後の計画</b>
シミュレーションセンターを5年次BSL時においても自主的に利用可能となるよう次年度に向けて工夫をしていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学修成果に学生が到達するために、経験すべき患者数と疾患分類を観点にどのような臨床トレーニング施設を確保すべきかを検討すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
本年度から新たに、学生がBSL中に経験した症例・疾患や医行為を単位レポートと連結して記録するシステムを構築し、4学年から入力を開始した。	
<b>今後の計画</b>	
学生の経験した症例・疾患や医行為の記録等を分析し、臨床トレーニング施設の検討を行う。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生の臨床実習の内容が臨床トレーニング用施設により影響されるため、現在使用している臨床トレーニング用施設がその地域住民のニーズに役立っているかを評価し、学生の臨床経験が不足する場合は複数の別の施設も教育に利用するなど検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
昨年までは、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の院外実習は制限していたが、今年度から4・5年生の一部の実習科目において院外実習を再開した。本年度から新たに、学生がBSL中に経験した症例・疾患や医行為を記録するシステムを構築し、4学年から入力を開始した。	
<b>今後の計画</b>	
学生の経験した症例・疾患や医行為の記録等を分析し、臨床トレーニング施設の妥当性の検討を行う。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

--

#### 改善した項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
情報通信技術の使用倫理規定を整備すべきである。	
<b>改善状況</b>	
2019年に策定した「情報通信技術使用倫理規定」については、毎年4月に実施している教務委員会オリエンテーションにおいて全学生に周知し、学生便覧に掲載して学生に配布している。	
<b>今後の計画</b>	
規定の周知、順守を徹底させる。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
資料15 自治医科大学情報倫理規程	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
・大学附属病院での臨床実習では全学生に PHS だけでなく iPad を配布し、臨床実習環境を整備している事は評価できる。	
<b>現在の状況</b>	
学生が個人で iPad をすでに所有するようになり、一部の希望者に貸与している。コロナ禍でのメディア授業の実施を踏まえ、希望する学生に情報センターにおいて PC を貸与した。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
診療参加型臨床実習の確立のために、学生が医師の診療の補助に役目を果たせるよう、電子カルテの運用方法を検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
新型コロナウイルスの影響から、医療情報部の端末室への入室について、人数	

制限が設けられ、学生が入力できる端末の確保が困難な状況となっている。
<b>今後の計画</b>
新たな電子診療録の運用を病院側と検討する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.5 教育専門家</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
・医学教育の専門家がカリキュラム開発、指導および評価方法の開発に活用されている。	
<b>現在の状況</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

## 【領域 7】

### 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学修成果を観点に学生の学習進捗をモニタし、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩を分析し、現行カリキュラムでの課題の設定を行い、教育プログラムの改善をすべきである。	
現在の状況	
令和 4 年 6 月に開催した教務委員会の下部組織であるカリキュラム評価部会において、カリキュラム評価を実施し、これに基づき次年度カリキュラムを検討中である。ディプロマ・ポリシーに連動して作成したマイルストーンをもとに、学生及び担当教員による評価を導入した。学生によるカリキュラム評価も年 2 回のペースで実施することにした。	
今後の計画	
カリキュラム改善 WG 等で検討し、10 月までに令和 5 年度カリキュラムを作成する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 1 第1回カリキュラム評価部会議事次第	

### 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム 評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、カリキュラム部会と教務委員会に提言するシステムを早急に構築すべきである。	
現在の状況	
マイルストーン評価、成績評価、学生・教員によるカリキュラム評価は全て IR に集積され、解析されている。今年度カリキュラム評価部会においては、科目間の成績評価の相関を解析し、結果を教務委員会へ報告し、カリキュラム部会における次年度カリキュラム作成へ繋げている。	
今後の計画	
カリキュラム評価部会と IR 部門との連携を強め、マイルストーン評価も含めたさらなる解析を実施していく。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.1 教育プログラムのモニタと評価</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
カリキュラム評価部会においては、IR 部門での解析結果に基づき、以下の問題点を抽出した。 ① 3年次の留年者数が多い ② 2年次後半から3年次にかけて留年者数が増加している ③ 5年次の留年者数が多い ④ BSL の評価の乖離 ⑤ 総合医療、地域医療への理解と実践に向けたマイルストーンによる段階的評価の必要性 これに基づき、各学年でのカリキュラム改善を教務委員会へ提言した。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き IR 部門において分析を行い、カリキュラムの包括的評価に努める。これに基づいたカリキュラム改善をカリキュラム部会において実施予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.2 教員と学生からのフィードバック</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
IR 部門が評価に有用なデータを収集し、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、プログラム改善に資することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
マイルストーン評価、成績評価、学生・教員によるカリキュラム評価は全て IR に集積され、解析され、カリキュラム評価部会での提言を、カリキュラム部会でのカリキュラム改善につなげる PDCA サイクルが始動している。	
<b>今後の計画</b>	
より多くの情報を活用し、カリキュラム改善につなげられるシステムを確立していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.3 学生と卒業生の実績</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
卒業生の実績を分析し、課題に対応していることは高く評価できる。	
<b>現在の状況</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.3 学生と卒業生の実績</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
IR 部門が学生の実勢のデータを収集し、そのデータをもとにカリキュラム評価部会が使命と期待される学修成果、カリキュラム、資源の提供を分析すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
7月より、IR 部門において、マイルストーン評価を学生・担当教員から収集している。併せてカリキュラム評価についても本格的な情報収集を開始した。	
<b>今後の計画</b>	
IR 部門においてマイルストーン評価の分析を行い、使命と学修成果獲得について検討を行う。カリキュラム分析についてはカリキュラム部会およびその下部組織の各カリキュラム改善WGにおけるカリキュラム改善に活用する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.3 学生と卒業生の実績</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
卒業生に関するデータ収集を行っていることは評価できる。	
<b>現在の状況</b>	
継続中である。	
<b>今後の計画</b>	
継続する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

--

**今後改善が見込まれる項目**

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.3 学生と卒業生の実績</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、責任ある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
実績データを IR に集約し、教務委員会、学生委員会、学生寮生活サポートセンター運営会議、医学教育センター、学生寮生活サポートセンターへフィードバックしている。	
<b>今後の計画</b>	
引き続き学生に関する実績データを IR に集積・解析し関連する委員会へ還元していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

**今後改善が見込まれる項目**

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.4 教育の関係者の関与</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
カリキュラム評価部会に学生が参加しプログラム評価すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>学生からの意見を聞くカリキュラム連絡協議会が一層活発化し、様々な意見交換、改善希望などが出され、具体的な意見の吸い上げができています。</p> <p>具体的には、各学期の試験日程等の意見交換を行い、学生の要望により、科目責任者と試験日程について調整を行っている。全学生によるカリキュラム評価を年2回実施し始めた。</p>	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム連絡協議会の委員等をカリキュラム部会やカリキュラム評価部会の委員に含めた拡大版カリキュラム部会を開催する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.4 教育の関係者の関与</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	

<b>改善のための示唆</b>
各都道府県出身者を担当する教員や地域医療院外実習(CBL)の担当教員から卒業生の実績がフィードバックされていることは評価できる。
<b>現在の状況</b>
継続中である。
<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>

#### 今後改善が見込まれる項目

<b>7. 教育プログラム 評価</b>	<b>7.4 教育の関係者の関与</b>
<b>基質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学生に関してもその実績のデータ収集を行い、その評価結果を他の関連する教育の関係者に閲覧し、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
学長補佐会議において、教務委員長より年2回、学生の成績関係について報告を行い、教育の関係者との情報共有を図っている。 医学教育センター教員が中心となって、他大学の医学教育専門家と情報交換ならびに学習の機会をとっている。	
<b>今後の計画</b>	
学生の実績や評価結果について、教育関係者のフィードバックを求めていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	



## 【領域 8】

### 今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.1 統括
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
教育にかかわる委員会や部門の権限分離や役割分担を明記すべきである。	
現在の状況	
委員会設置規程はあるが、具体的な権限内容の明記はない。	
今後の計画	
教務委員会規程の見直しを検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括および管理運営	8.1 統括
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
47都道府県の意見を定期的に聴取し、教育の管理運営に活かしている。	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括および管理運営	8.2 教学における執行部
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学長・医学部長のリーダーシップの責務が明確に示されている。	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.2 教学における執行部
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
医学部の使命と学修成果を観点に教学におけるリーダーシップを評価する仕組みを改善することが望まれる。	
現在の状況	
内部質保証のシステムが明確に示され、医学部についても使命と学修成果に関する自己点検評価が導入されている。	
今後の計画	
評価結果に基づき、リーダーシップ評価も可能であるが、明示等について今後検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括および管理運営	8.3 教育予算と資源配分
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
顧問指導・学外卒後指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議からの意見を聴取し、資源の配分にあたり考慮している。	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料7 令和4年度 都道府県自治医科大学主管課長会議次第	

### 今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
国の高等教育政策や私学助成に関する情報を収集し、教育管理運営に活かすべきである。	
現在の状況	
経常費補助金教育の質に係る客観的指標調査を行い、検証・改善に取り組んでいる。	
今後の計画	
引き続き、改善に取り組む。	

現在の状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

8. 統括および管理運営	8.4 事務と運営
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
使命に沿った教育プログラムの遂行が適切に行えるよう、管理運営組織の定期的な内部質保証の仕組みを拡充することが望まれる。	
現在の状況	
大学基準協会の第3期認定評価を受審し、内部質保証についてのシステム及び規定について改善した。特にチェック機構については全体作業部会を独立させ、医学部を含めた大学の年次事業計画実施の評価を行なっている。	
今後の計画	
医学部における内部質保証システムのPDCAの確実な運用に向けて、改めて中期目標、年次計画の設定方法の見直しを行う。教育プログラムのPDCAについては教務委員会、カリキュラム部会、カリキュラム評価部会、IR部門において引き続き検討を予定している。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括および管理運営	8.5 保健医療機関との交流
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
顧問指導・学外卒後指導委員合同会議、都道府県自治医科大学主管課長会議を通じて定期的に全国の地域医療を担う医師や行政部門、保健医療関連部門と意見交換を行い、建設的な交流を継続していることは高く評価できる。	
現在の状況	
継続中である。	
今後の計画	
継続する。	
現在の状況を示す根拠資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統括および管理運営	8.5 保健医療機関との交流
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各都道府県に臨床教員を配置し、地域における臨床実習の調整等を依頼している。</li> <li>・学生は、6年次に行われる都道府県拠点病院実習における臨床実習を通じて、全国の保健医療関係部門のスタッフからの指導を受けていることは評価できる。</li> </ul>
<b>現在の状況</b>
継続中である。
<b>今後の計画</b>
継続する。
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>
資料9 令和4年度5・6学年臨床実習（都道府県拠点病院実習内容一覧）

## 【領域 9】

### 今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
IR 部門が評価に有用なデータを収集した後、カリキュラム評価部会でその結果を分析し、教務委員会に提言することで、教育プログラムが確実に改善されるシステムを実働させるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
IR 部門でのデータ収集後、カリキュラム評価部会において、IR 部門での各科目評価結果の解析をもとにカリキュラム評価を行い、現在のカリキュラムの評価および問題点を整理した。教務委員会において状況を共有し、問題点については、カリキュラム部会およびその下部にある基礎系（選択セミナー）カリキュラム改善 WG、臨床系（BSL・臨床講義）カリキュラム改善 WG、社会・地域医療系カリキュラム改善 WG において、次年度以降のカリキュラムへ反映させる検討へ繋げている。	
<b>今後の計画</b>	
次年度カリキュラムについては、基礎系（選択セミナー）カリキュラム改善 WG、臨床系（BSL・臨床講義）カリキュラム改善 WG、および社会・地域医療系カリキュラム改善 WG で立案後、カリキュラム部会、教務委員会での議論を経て決定する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	